

中小企業景況調査報告書

2022年度第1・四半期（4～6月）

浅野公園



一宮市観光協会提供

目次

調査の要領	1
今期の概況	2
景況に対するコメント	3
景況の推移 前年同期比	4
業種別集計表・新規設備投資集計表（100社）	5
景況の推移業種別集計表 前期比	6
「直面している経営上の問題点」の集計表（業種別上位3位）	7
「直面している経営上の問題点」の集計表（各業種）	8～10
前年同期比のグラフ（各項目）	11～14

The Ichinomiya Chamber of Commerce & Industry

一宮商工会議所 中小企業相談所

調 査 の 要 領

- I. 調査対象期間 調査対象期間は、「4～6月」「7～9月」「10～12月」「1～3月」の四半期毎とする。
- II. 調査実施時期 調査実施時期は、「4～6月」「7～9月」「1～3月」については目安として各四半期二月目の25日から末月の1日とし、末月の1日時点で調査する。また、「10～12月」については、目安として11月10日から15日とし、15日時点で調査する。
- III. 調査の実施
(方 法) 調査は、日本商工会議所の調査様式を用いて調査実施時期に、原則として経営指導員が企業を訪問し、面接・聴き取りにより行う。
- IV. 調査対象企業数 100事業所
- V. 調査対象企業
の業種 次の表のとおり

景況調査対象事業所（100）の内訳

業 種	事業所数
建設業	12
製造業	35
卸売業	10
小売業	16
サービス業	27
合 計	100

- VI. その他の分析
1. 設備投資 実施状況数
2. 経営上の問題点 各項目をポイント加算
- | | |
|---|---------|
| 〔 | 1位3ポイント |
| | 2位2ポイント |
| | 3位1ポイント |
- 〕

今 期 の 概 況

行動制限の緩和が進み持ち直しの動きが見られるも
先行きについては慎重な見方広がる

1. 前年同期比D I 値の分析

今期(表1参照)は、業況、売上、採算、資金繰り、従業員すべてのDI値で前期実績を上回った。

来期は、採算のDI値で今期実績を上回り、業況、売上、資金繰り、従業員のDI値で今期実績を下回る見通し。

指標別の状況

- 業況DI値は、前期実績▲22.0から▲14.0(8.0ポイント増)となり、来期は▲22.0(8.0ポイント減)となる見通し。
- 売上DI値は、前期実績▲6.0から21.0(27.0ポイント増)となり、来期は8.0(13.0ポイント減)となる見通し。
- 採算DI値は、前期実績▲38.0から▲30.0(8.0ポイント増)となり、来期は▲28.0(2.0ポイント増)となる見通し。
- 資金繰りDI値は、前期実績▲15.0から▲13.0(2.0ポイント増)となり、来期は▲15.0(2.0ポイント減)となる見通し。
- 従業員DI値は、前期実績▲8.0から▲6.0(2.0ポイント増)となり、来期は▲7.0(1.0ポイント減)となる見通し。

2. 前期比D I 値の分析

今期(表4、5参照)は、業況、売上、資金繰りすべてのDI値で前期実績を上回った。

指標別の状況

- 業況DI値は、前期実績▲27.0から▲18.0(9.0ポイント増)となった。
- 売上DI値は、前期実績▲29.0から13.0(42.0ポイント増)となった。
- 資金繰りDI値は、前期実績▲17.0から▲9.0(8.0ポイント増)となった。

3. 設備投資の動向

今期の設備投資は、前回調査値(32件、24事業所)に比べ事業所数は増加しているが、件数は横ばいである。

- ① 今期の実績(表3参照)は32件(27事業所)。その主な内訳は、『生産設備』12件、『車両・運搬具』8件、『工場建物』『付帯施設』各4件となっている。
- ② 来期の計画(表3参照)は29件(23事業所)。その主な内訳(予定)は、『生産設備』10件、『OA機器』6件、『車両・運搬具』4件となっている。

4. 直面している経営上の問題点

業種別の直面している経営上の問題点(表6参照)は、多くの業種で経営上の問題点の上位に『仕入等単価の上昇』、『ニーズの変化への対応』、『需要の停滞』を挙げている。

業 況 レ ポ ー ト

今期については次のようなコメントをいただきました。

A社（繊維製造業〈インテリア織物製造〉）

インテリア織物業界は、新型コロナウイルス感染症発生時に在宅テレワーク等で大幅に低価格帯の商品が売れたものの、現在は、高額品はもとより低価格品も受注が低迷している。加えて、原材料価格が上昇する中、価格転嫁が進んでいない。

B社（繊維製造業〈織物染色業〉）

染色業界は昨年と比較すれば回復傾向にはあるが、コロナ前には戻っていない。また、使用している原材料（染料、薬品など）は、大半が中国を中心とした海外からの輸入品のため、為替の変動（円安）がストレートに業績に影響している。価格転嫁は進めているが、受託生産のため3ヵ月から半年のタイムラグが生じている。

C社（建設業〈土木建設工事〉）

東京オリンピック開催前は建設バブルと言われ好況であった建設業界も、オリンピック閉幕で特需がなくなったのと円安により原材料価格が高騰し、建設業界は大きなダメージを受けている。また、間接的ではあるものの長引く新型コロナウイルス感染症による景気低迷の影響も受けており先行きは不透明である。

D社（小売業〈家電小売〉）

新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着き、来店客数は戻りつつあるが、コロナ前のようなお客様への訪問は出来ずにいる。業界も半導体不足や中国のロックダウンの影響で商品生産が追いつかない状況で、お客様に対して十分な対応ができずにいる。

E社（卸売業〈食品容器卸売業〉）

新型コロナウイルス感染症による規制緩和は進んでいるものの、飲食業界はお客様の戻りが芳しくなく苦戦が続いている店が多く、慶事や仏事による受注も期待できない。イベント業界も飲食を伴うイベントをまだ開催できずにいるので、業況は良くない。

F社（サービス業〈OA機器修理〉）

感染症による規制緩和は進んでいるが、それがすぐに売上増加に結びつくことは難しい。半導体不足の為、メーカーから商品、部品の入手が難しく、顧客への供給が大幅に遅れており、顧客を他社に持っていかれてしまっている。

G社（サービス業〈エステサロン〉）

エステ業界は、メンズエステが伸びている。40～50代の男性を中心に、ヒゲ脱毛などの美顔や痩身施術のニーズが高まっている。今後、感染症による規制緩和が進み活動的になると、癒しと自分磨きを求め、更に利用回数が増えると思われる。

景況の推移

表 1

～ 前年同期比～

	R3. 4～6月	R3. 7～9月	R3. 10～12月	R4. 1～3月	今 期 R4. 4～6月	来期の見通し R4. 7～9月
業 況	▲21.0	▲17.0	▲13.1	▲22.0	▲14.0	▲22.0
売 上	▲16.0	▲14.0	▲ 7.1	▲ 6.0	21.0	8.0
採 算	▲25.0	▲18.0	▲24.2	▲38.0	▲30.0	▲28.0
資金繰り	▲ 9.0	▲17.0	▲13.1	▲15.0	▲13.0	▲15.0
従 業 員	▲ 9.0	▲ 9.0	▲10.1	▲ 8.0	▲ 6.0	▲ 7.0

業種別集計表 ～ 前年同期比 ～

表 2

	事業所数	12	35	10	16	27	100	D I
		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合計	
業況	好転	2 (1)	13 (9)	1 (1)	0 (0)	6 (2)	22 (13)	▲ 14.0 (▲22.0)
	不変	5 (8)	13 (16)	5 (6)	8 (11)	11 (11)	42 (52)	
	悪化	5 (3)	9 (10)	4 (3)	8 (5)	10 (14)	36 (35)	
売上	増加	3 (2)	22 (14)	4 (5)	7 (2)	12 (10)	48 (33)	21.0 (8.0)
	不変	5 (8)	7 (14)	1 (2)	7 (10)	5 (8)	25 (42)	
	減少	4 (2)	6 (7)	5 (3)	2 (4)	10 (9)	27 (25)	
採算	好転	0 (0)	8 (5)	1 (1)	0 (1)	4 (4)	13 (11)	▲ 30.0 (▲28.0)
	不変	3 (5)	16 (20)	4 (5)	10 (11)	11 (9)	44 (50)	
	悪化	9 (7)	11 (10)	5 (4)	6 (4)	12 (14)	43 (39)	
資金繰り	好転	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (1)	3 (3)	▲ 13.0 (▲15.0)
	不変	11 (12)	29 (29)	8 (9)	12 (10)	21 (19)	81 (79)	
	悪化	0 (0)	5 (5)	2 (1)	4 (5)	5 (7)	16 (18)	
従業員	増加	1 (0)	4 (6)	0 (0)	2 (1)	3 (2)	10 (9)	▲ 6.0 (▲7.0)
	不変	9 (10)	24 (23)	10 (10)	13 (14)	18 (18)	74 (75)	
	減少	2 (2)	7 (6)	0 (0)	1 (1)	6 (7)	16 (16)	

※ 採算は経常利益で判断

※ () 内は来期

新規設備投資集計表

表 3

設備投資	今期	実施した ※1	27	来期	計画している ※2	23
	(事業所数)	実施していない	73	(事業所数)	計画していない	77

	※ 1	※ 2		※ 1	※ 2
1. 土地	2 件	2 件	5. 付帯施設	4 件	2 件
2. 工場建物	4 件	2 件	6. O A 機器	1 件	6 件
3. 生産設備	12 件	10 件	7. 福利厚生施設	1 件	0 件
4. 車両・運搬具	8 件	4 件	8. その他	0 件	3 件
			合計	32 件	29 件

複数回答可

景況の推移

表 4

～ 前 期 比 ～

	R3.4～6月	R3.7～9月	R3.10～12月	R4.1～3月	今 期 R4.4～6月
業 況	▲ 9.0	▲18.0	▲ 3.0	▲27.0	▲18.0
売 上	3.0	▲10.0	2.0	▲29.0	13.0
資金繰り	▲ 9.0	▲15.0	▲ 8.1	▲17.0	▲ 9.0

業種別集計表

表 5

～ 前 期 比 ～

	事業所数	12	35	10	16	27	100	D I
		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合計	
業 況	好 転	0	6	0	0	4	10	▲ 18.0
	不 変	7	23	6	11	15	62	
	悪 化	5	6	4	5	8	28	
売 上	増 加	2	17	3	3	14	39	13.0
	不 変	5	12	2	10	6	35	
	減 少	5	6	5	3	7	26	
資 金 繰 り	好 転	0	3	0	0	2	5	▲ 9.0
	不 変	11	28	8	14	20	81	
	悪 化	1	4	2	2	5	14	

『直面している経営上の問題点』の集計表

表 6

(業種別上位3位)

業 種 順位	内 容		
	1 位	2 位	3 位
建設業	○材料価格の上昇	○材料の入手難	○民間需要の停滞
製造業	○原材料価格の上昇	○需要の停滞	○生産設備の不足・老朽化
卸売業	○仕入単価の上昇	○需要の停滞	○販売単価の低下・上昇難
小売業	○仕入単価の上昇	○消費者ニーズの変化への対応	○販売単価の低下・上昇難
サービス業	○利用者ニーズの変化への対応 ○材料等仕入単価の上昇	○従業員の確保難	○利用料金の低下・上昇難

『直面している経営上の問題点』の集計表

建設業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	0
新規参入業者の増加	3
材料価格の上昇	29
材料の入手難	12
人件費の増加	0
材料費・人件費以外の経費の増加	1
請負単価の低下・上昇難	5
下請単価の上昇	2
金利負担の増加	0
取引条件の悪化	0
事業資金の借入難	0
従業員の確保難	6
熟練技術者の確保難	1
下請業者の確保難	0
官公需要の停滞	5
民間需要の停滞	7
その他	0
合 計	71

製造業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	0
新規参入業者の増加	2
製品ニーズの変化への対応	15
生産設備の不足・老朽化	18
生産設備の過剰	0
原材料価格の上昇	80
原材料の不足	10
人件費の増加	14
原材料費・人件費以外の経費の増加	14
製品(加工)単価の低下・上昇難	12
金利負担の増加	0
取引条件の悪化	1
事業資金の借入難	0
従業員の確保難	8
熟練技術者の確保難	2
需要の停滞	29
その他 (コロナ)	2
合 計	207

※ 1位 … … 3ポイント
 2位 … … 2ポイント
 3位 … … 1ポイント

『直面している経営上の問題点』の集計表

卸売業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	0
メーカーの進出による競争の激化	0
小売業の進出による競争の激化	3
新規参入業者の増加	0
店舗・倉庫の狭隘・老朽化	1
商品在庫の過剰	0
人件費の増加	0
人件費以外の経費の増加	3
販売単価の低下・上昇難	5
仕入単価の上昇	26
金利負担の増加	0
代金回収の悪化	3
事業資金の借入難	0
従業員の確保難	0
需要の停滞	14
その他	0
合 計	55

小売業

内 容	ポイント
大型店・中型店の進出による競争の激化	3
同業者の進出	4
購買力の他地域への流出	3
消費者ニーズの変化への対応	15
店舗の狭隘・老朽化	4
駐車場の確保難	0
商品在庫の過剰	0
人件費の増加	6
人件費以外の経費の増加	3
販売単価の低下・上昇難	13
仕入単価の上昇	20
金利負担の増加	2
代金回収の悪化	0
事業資金の借入難	5
従業員の確保難	6
需要の停滞	4
その他 (税金・通販・異業種の参入、進出)	7
合 計	95

※ 1位 … … 3ポイント
 2位 … … 2ポイント
 3位 … … 1ポイント

『直面している経営上の問題点』の集計表

サービス業

内 容	ポイント
大企業の進出による競争の激化	7
新規参入業者の増加	10
利用者ニーズの変化への対応	25
店舗施設の狭隘・老朽化	9
人件費の増加	10
人件費以外の経費の増加	6
利用料金の低下・上昇難	14
材料等仕入単価の上昇	25
金利負担の増加	0
事業資金の借入難	3
従業員の確保難	16
熟練技術者の確保難	4
需要の停滞	12
その他 (利用者の低下、夜のお客は減少)	2
合 計	143

※ 1位 … … 3ポイント
 2位 … … 2ポイント
 3位 … … 1ポイント

景況 DI (全業種) - 前年同期比 -

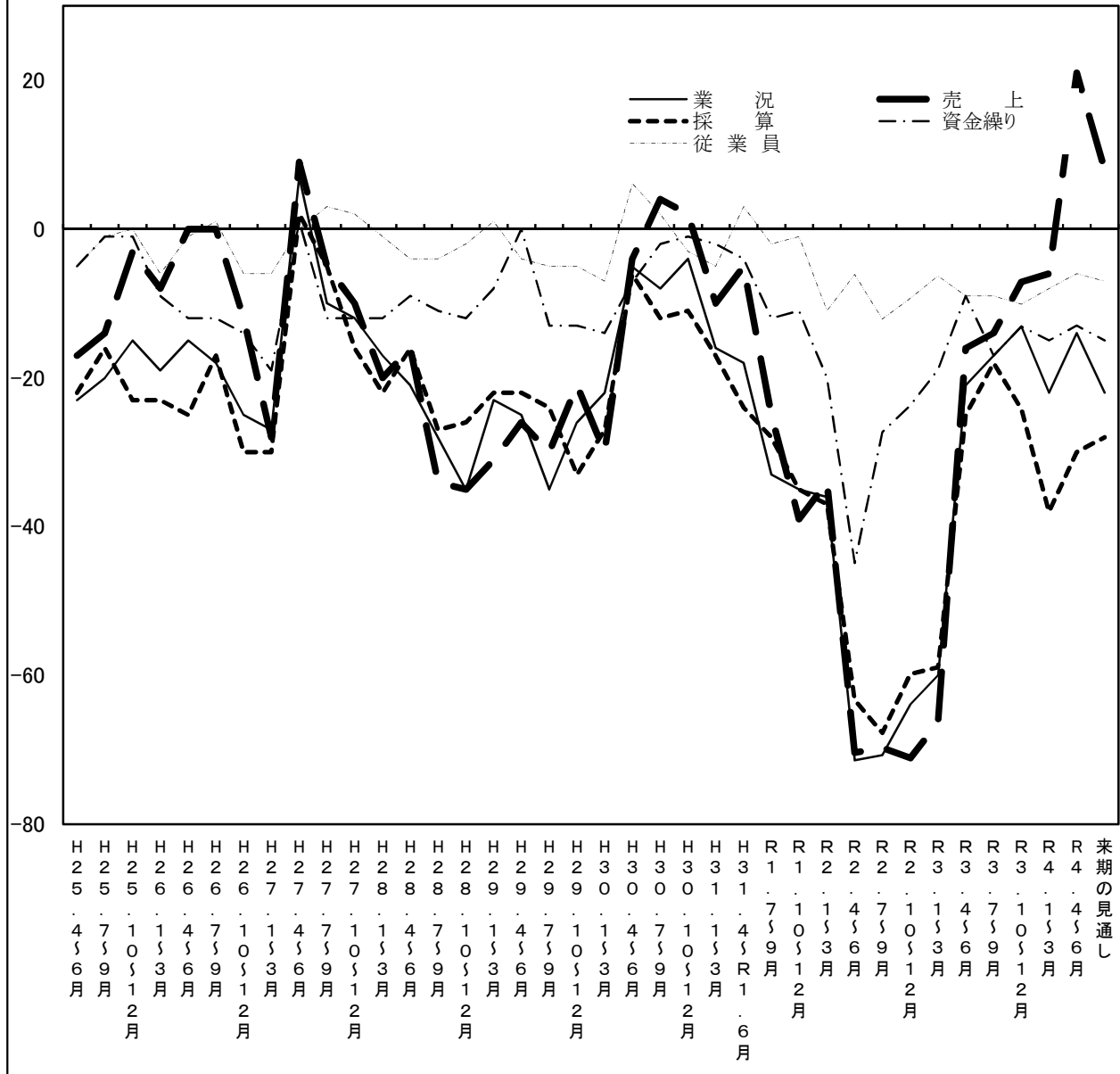


図 2

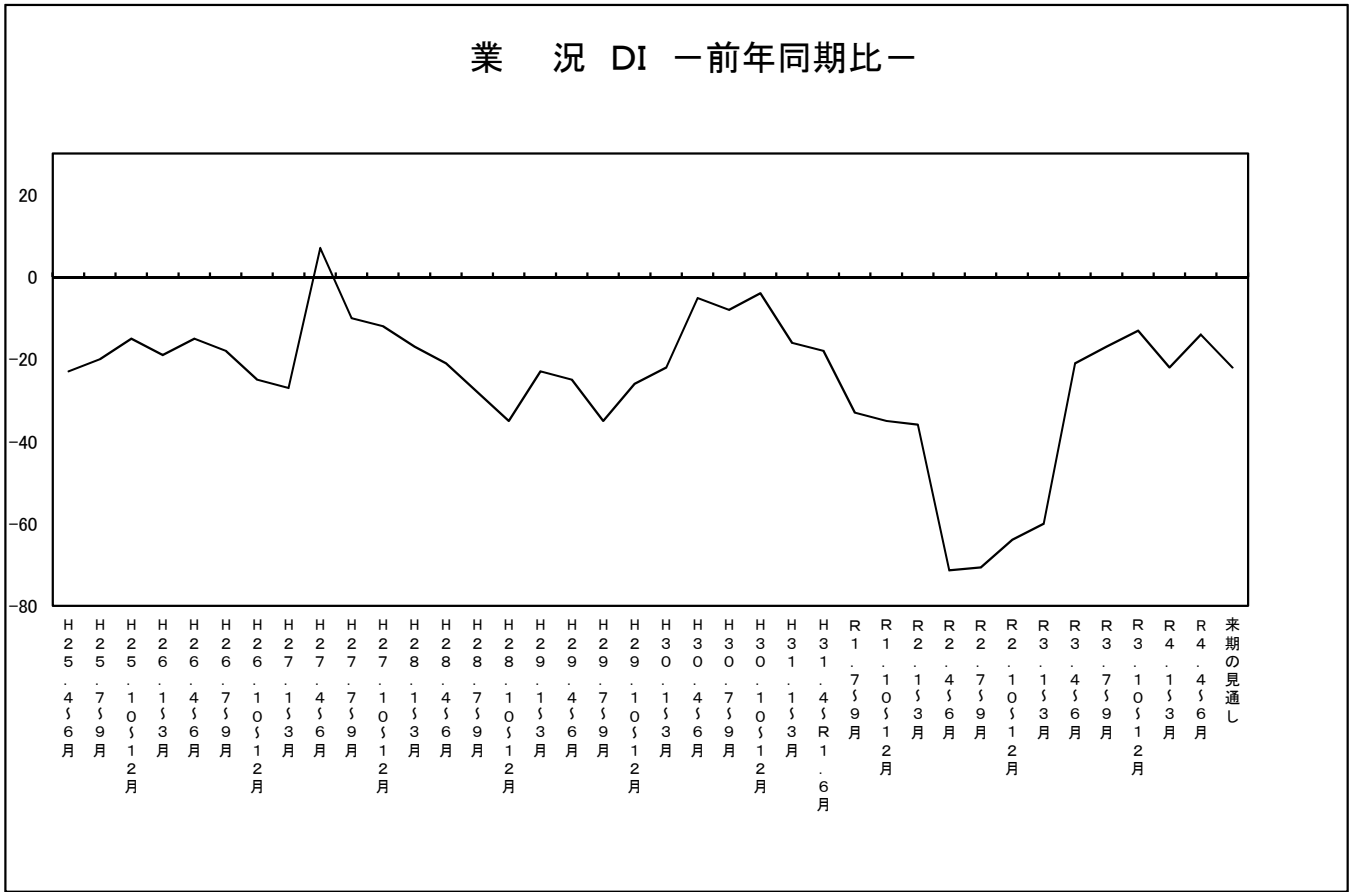


図 3

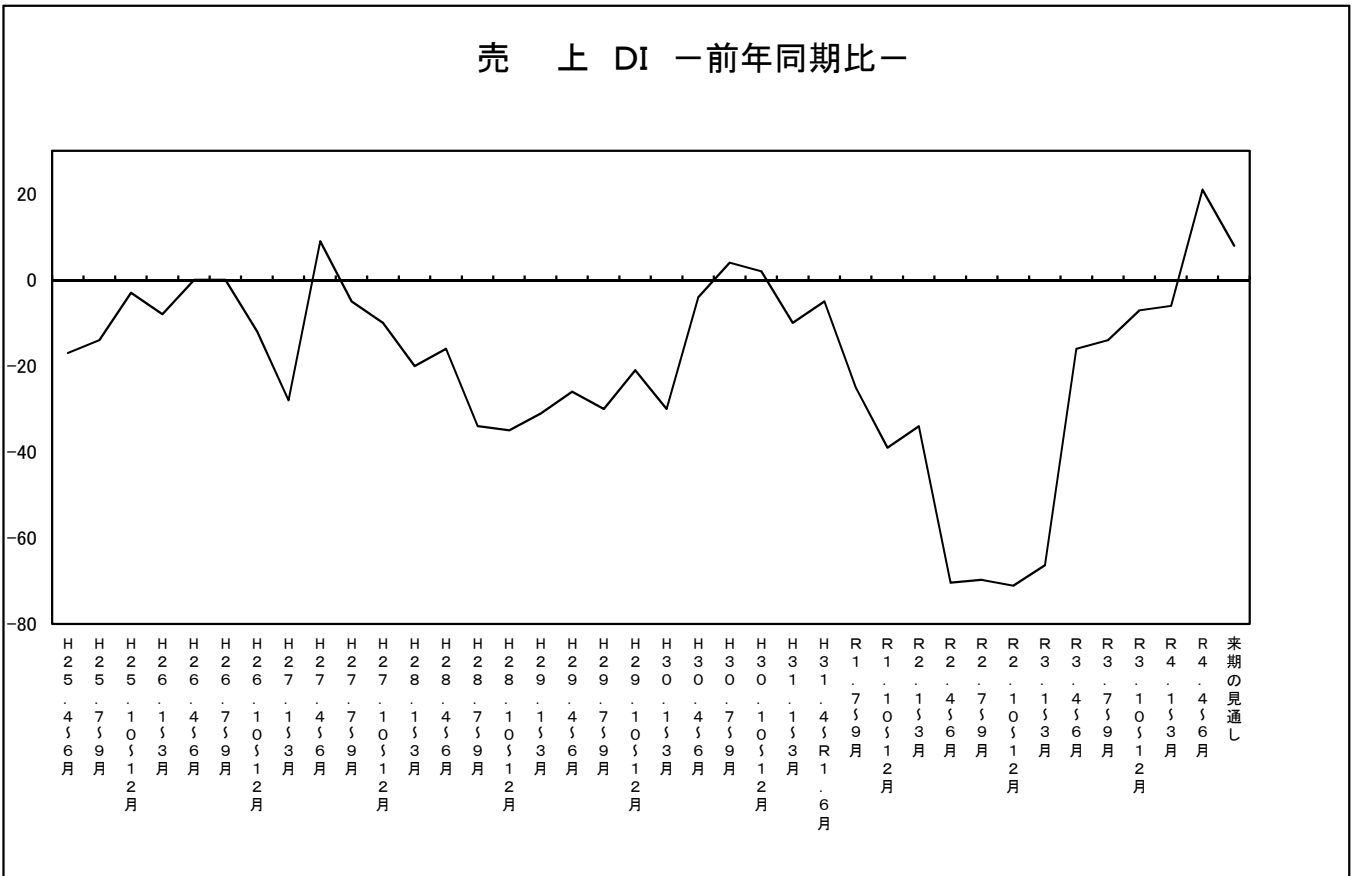


図 4

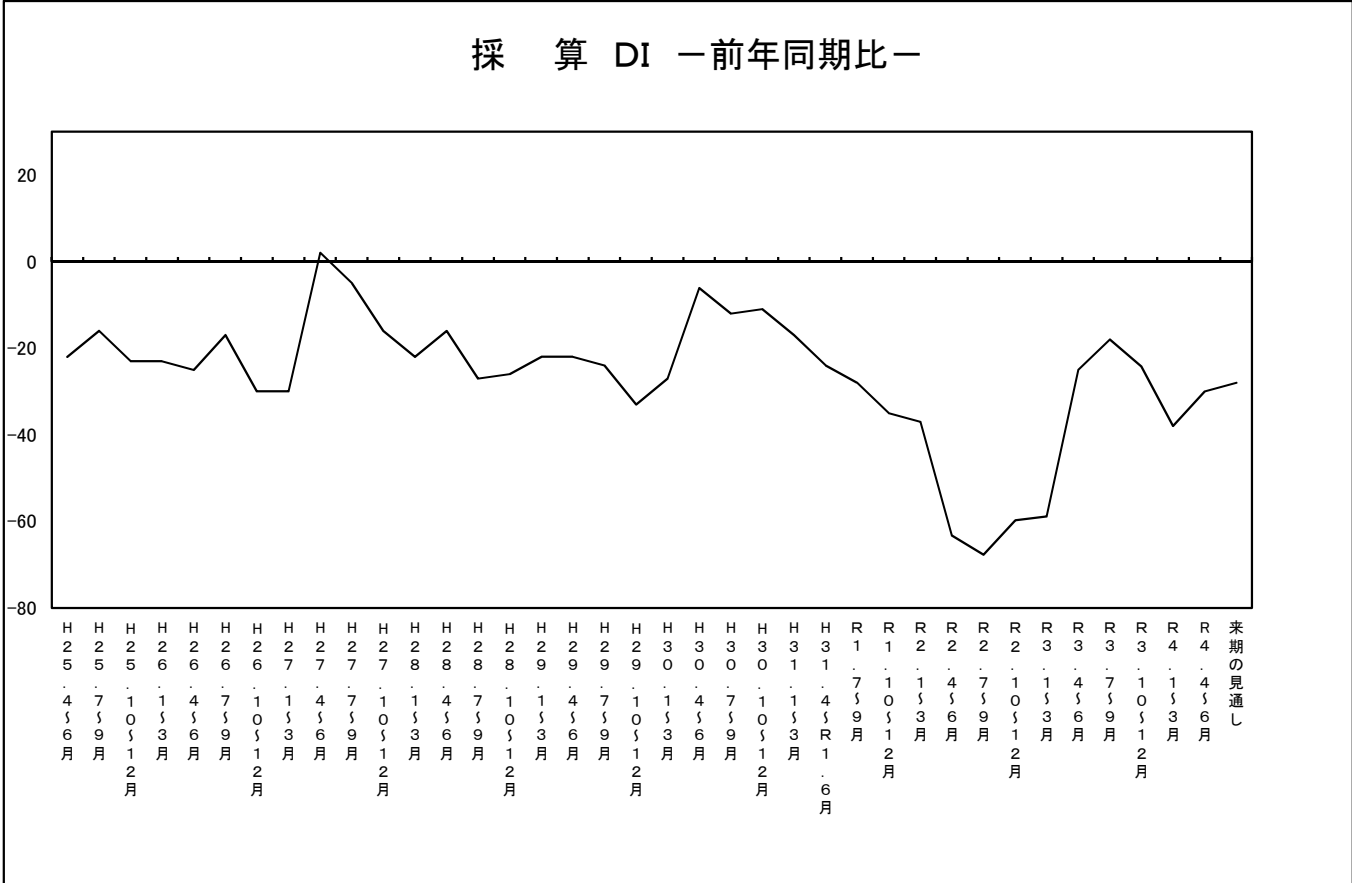
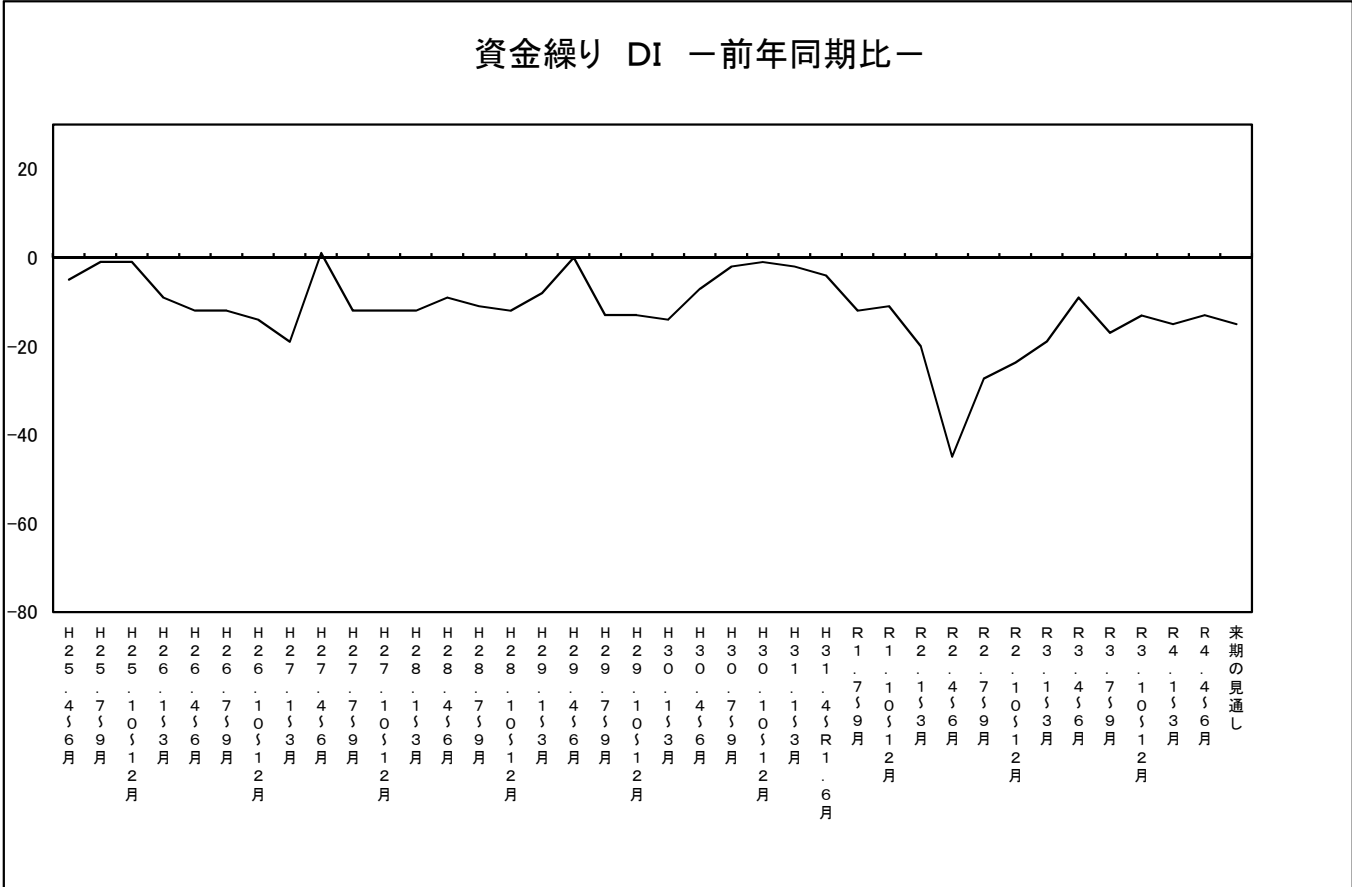
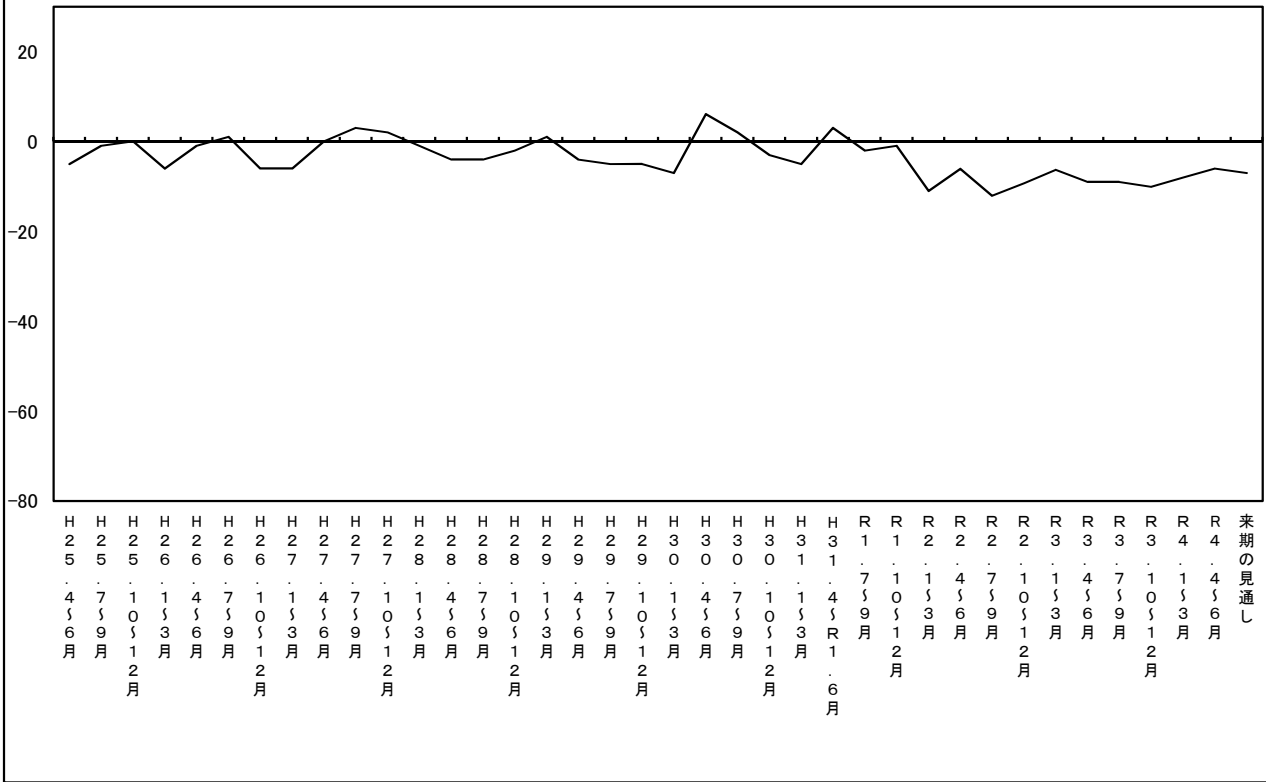


図 5



従業員 DI - 前年同期比 -





一 宮 商 工 会 議 所
中 小 企 業 相 談 所

一宮市栄四丁目6番8号 (〒491-0858)

T E L (0586) 72-4611

F A X (0586) 72-4411

U R L <http://www.ichinomiya-cci.or.jp>

E-mail soudan@ichinomiya-cci.or.jp